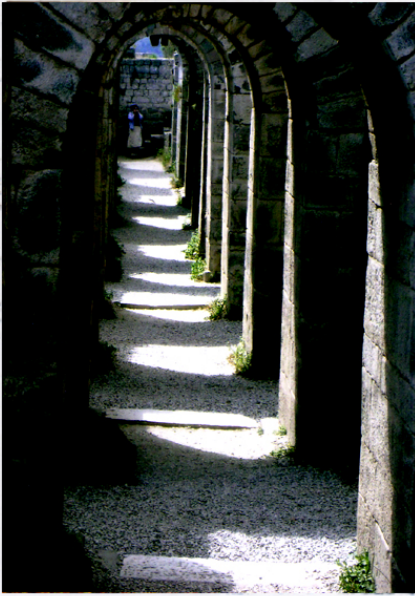


治療棟に向かう82階の地下道は

ほぼ完全な状態で残っている



目宿泊

エーゲ海の島々はほと

この遺跡の最大の特

力が入り、イスラム

の激しさを胸を打つ

この巨大な医療施設

エーゲ海沿いに南下

ダーダネルス海峡の出口、小アジアと呼ばれるアナトリア半島の



藤屋 侃士 (下松市幸ヶ丘)

81

ルまでは二百十、余りだ。

前回まで四回にわたって紹介したトロイ遺跡を午前中に見物し、午後、ベルガマに向かう。

エーゲ海にはトルコ本土と目と鼻の先にある島をはじめたくさん島がある。そのほとんどがギリシャ領だ。

これらの島々はオスマン・トルコ時代はすべてトルコ領だった。しかし第一次世界大戦でトルコはドイツ側について敗れ、本土以外の領土はほとんど失った。本土さえ連合国側が奪い合うように占領し、イズミールにもギリシャ軍が上陸した。

この危機を救い、本土を守ったのがトルコ共和国の「建国の父」と国民から尊敬されている初代大統領、アタチュルクである。が、エーゲ海の島々はほと

んどがギリシャ領になった。

微は、ローマの医療施設アスクレピオン(療養所)であろう。紀元前一世紀ごろから存在した施設なのに治療だけでなく、患者のために演劇や演奏をする野外劇場や図書館まで併設されていたというから驚く。

精神的な癒しのために長い地下道を通って神殿兼待合室に入る。わき出る聖水で体を清め、日光浴のためのテラス、浴室、泥浴プールまであったという。

説明書によると、この医療施設では数百年にわたって一人の死者も出なかったとか。それもそのはず、死者が出たら密かに夜のうちに門外に運び出されたらしい。外国産なのに国内産と言ったり、賞味期限を改ざんしたりするより何かほほえましい。

七世紀にイスラム勢力が入り、イスラム

の激しさを胸を打つ

この巨大な医療施設

島々を奪われたギリシャとトルコの国境線



島々を奪われたギリシャとトルコの国境線

中心となつてからベルガモンは衰え、今は膨大な遺跡だけが残っている。八百年以上、ギリシャ・ヘレニズム文明の中心地の一つとして栄えたのに、今は遺跡だけという、栄枯盛衰の激しさを胸を打つ。

この巨大な医療施設があった遺跡を訪ねている最中にツアー客の一人の男性が脳出血で倒れた。未来で確実なものは何もないと改めて感じたのである。(元山口放送取締役ラジオ局長)